

令和8年度第3回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和8年(2026年)8月5日(水) 午後1時00分～午後3時00分

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 協議会委員

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民:小川委員、小松原委員、清水委員、新井委員

市民団体:関口委員、小野寺委員

学生 :興津委員、五味委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

清掃事業者:高松委員、新野委員、津嶋委員(本人欠席のため代理出席)

【施設課長】

井上委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、河本主任、土屋主事

欠席者 協議会委員

【市民委員】

学生:鈴木委員、田中委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

清掃事業者:多治見委員

販売事業者:内田委員

【環境政策課長】

成澤委員

傍聴者 あり(1名)

次第

1.開会

2.議事

3.その他

4.閉会

■主な内容

<協議会>

1. 開会

・開会のご挨拶（日野市）

2. 議事

事務局より説明。

① 前回議事の確認

② ごみ組成調査の結果報告について

（質疑応答）

A 委員：日野市の分別状況がとても良好な状態であることが確認できた。一方で、コロナ以降、ダンボールやペットボトルごみが増加するなどライフスタイルの変容を感じる人が多い。このような社会状況や生活様式の変化を踏まえた上で、日野市が目指すべき将来的な方向性、また、ごみの分別状況をさらに向上させるための具体的な施策について、専門的な見地から助言をいただきたい。

事務局：過去にごみ組成分析調査を実施した他自治体と比べても日野市のごみはほぼ適切に分別されている。しかしながら、一部で不適物の混入が見られるため、更なる分別を徹底していく必要がある。外国人住民やごみ出しや分別が困難な方も一定程度存在するため、100%の分別を達成することは現実的ではないと認識している。市が目指すべき方向性や課題解決に向けた具体的施策については、次回の協議会にて委員の皆様とともに検討していきたい。

B 委員：古紙再生促進センターでは令和3年度に約100自治体を対象に可燃ごみにおける紙類の混入率について調査を実施した。平均的な紙類の混入率は30%程度であったが、日野市は20%程度となっており、他の自治体と比べても分別が進んでいるといえる。最近リチウムイオン電池による火災事故が問題になっているが、今回の組成調査の中でリチウムイオン電池の混入はあったか。

事務局：紙類については、資料P16の写真のとおり、混入している紙ごみの大半がレシートや汚れている紙ごみ等資源化できないものであった。リ

チウムイオン電池の混入は、今回の調査では確認されなかったが、施設への搬入は複数回確認されている。

③ ごみに関するアンケート調査の実施結果について
(質疑応答)

A 委員：プラスチック類ごみの分別についてわかりにくいという意見が多いため、汚れをどこまで落とすべきか明確な基準を示すことが必要である。その際に、プラスチックの汚れを水で落とす際に生じる環境影響と、汚れが付着したまま処理を行う際のクリーンセンターの作業員の作業環境への影響の双方を考慮する必要がある。また、ごみ分別アプリについては若年層を中心に普及している一方で、更新が少ないとの意見があり、改善の必要がある。全回答数約 800 件に対し自由意見が約 200 件も寄せられており、市民のニーズや不満等を汲み取る必要がある。

事務局：プラスチック類ごみの汚れに対する判断基準については、次回発行の「ごみ情報誌エコー」の中で明示する予定である。ある程度汚れが付着していても資源化可能であるものの、クリーンセンターの作業員の労働環境を考慮すると、市民への適切な啓発が必要と考えている。現在、収集したプラスチック類ごみについては、容器包装リサイクル協会による品質調査が年に 2 回実施されており、日野市は現在 A 評価を維持している。これは当協会が受け入れるための品質基準を満たしていることを示すものである。現在は環境負荷の小さいケミカルリサイクル、マテリアルリサイクルを実施できているが、品質が低下した場合は、受け入れが不可となり、サーマルリサイクルへ移行してしまう懸念がある。市民へは過度な負担をお願いするのではなく、可能な範囲で汚れを落としていただき、洗浄が困難なものについては可燃ごみとして排出していただくという方針を改めて周知していく。また、ごみ分別アプリについては更新が不足していた点を反省点として受け止め、今後改善していく。

A 委員：日野市から排出されたプラスチック類ごみがどのように格付けされ、リサイクルされているのか、また、市民がプラスチック類ごみを洗浄する必要性について市民に周知するための情報発信が必要である。

C 委員：サランラップや食用油の容器などのプラスチック類ごみについて、どこまで洗えばよいのか、判断基準に関する情報が不足している。市民にわかりやすく伝わる効果的な啓発・情報発信をお願いしたい。

事務局：ごみ・資源分別カレンダーに、ラップは汚れを取り除いて、食用油のプ

プラスチック容器は逆さにして油をきってからプラスチック類ごみとして排出するよう記載している。また、全般に共通する基準として、食べかす等の汚れが落ちないものが付着している場合は可燃ごみとして排出することをお願いしている。しかしながら、現在の周知方法では分かりにくいという市民のご意見を真摯に受け止め、より広く伝わる情報発信および啓発方法の改善を検討していく。

④ ごみ処理の現状と課題について

⑤ グループワーク

・グループワーク「課題・要因分析」

(1).概要説明

(2).グループワーク

(3).発表

(4).講評

3. その他

次回(第4回)協議会の開催:10月6日(火)開催予定

4. 閉 会